

自分一人からでも、行動する勇気を持ちましょう！

会社に勤務しながら大学で福祉関係を学ぶメル友から、次のようなメールが入った。

【 実習が始まりました。グループホーム宿泊実習や、ショートステイ、デイサービス作業実習等に参加します。

当事者の方に対して、こんな係わり合いって許されるのというつらい思いもし、落ち込みましたが、今は自分にとって一番大事な事は何かという事を大切にしていぶつかってみようと思います。 】

メル友へ、厚かましく、次のように返信をした。

【 私が、福祉は、制度やマニュアルでなく、究極的には一人一人の意識の問題といい続けているのは、こうした福祉現場の現状があるからです。

最近では、特養ホームの暴言、虐待問題が報道されていますね。

現役時代、療育目標や介護の基本姿勢の掲示と共に、『自分に云われたくない されたくないことは、云わない！しない！』と書いたスローガンを担当職場の壁に大きく掲示し、日常目にする事で、スタッフに自らを検証する機会になればと思っていました。

つまり、『利用者には、優しく声をかけましょう』のようにな抽象的なスローガンでは、具体的にどうするか解らないと思い、我が身に置き換えて理解し易いようにこうした文章で掲示しました。

一方、見学に来た他の施設の友人に「さすが、阿部君の職場！ 自分の職場では、こんな掲示をしても、次の日の朝には誰かに剥がされているだろう。」と言われたことがあります。

つまり、外部から来た人の目に、あたかもこの職場にはマイナス面が多いというような印象を与えるスローガンは「みっともない」と考える人が結構いるということのよう。

福祉の職場内では、誰かが利用者の目線で常に発信し続け、スタッフに煙たがられようが検証を促さないと、あなたが目にしたようなことが日常的に起こり得るのです。

また、先に当HPで触れたように、あなたのような研修生等を受け入れるのは、スタッフの検証の機会になるのです（「雑学BN」の講義等関係（Ⅲ）P、2006.06.24。「実習は、『give and take』関係だからこそ、大事！」：参照）。

前に話したハチドリ（「雑学BN」の随想等関係（Ⅴ）P、2006.03.20。「みなさんは、ハチドリ？ それとも笑って見てるだけの動物の仲間？」：参照）のように、周りがどうであれ、あなたが云うように「一番大事な事は何かという事を大切にし」、行動する勇気を持ちましょう！ 】

さて、私が去った後の職場内では、誰が煙たがられ役を引き受けているのかなあ…。また、掲示はまだあるのかなあ…。

（2006年8月11日 記）